

14年度

第2回 統合ごみ処理施設整備検討委員会 報告書

日時：平成14年12月20日（金）

場所：愛知県「豊橋市資源化センター」

1 内 容 愛知県「豊橋市資源化センター」視察研修
説明者：浅倉主幹

2 アンケート集計結果

1 視察研修内容

1 概要説明

(1) 資源化センター新焼却施設施設概要

昭和55年から現在施設がある場所で、焼却処理が始まった。併せて、し尿処理、コンポスト(堆肥化施設128t/1日処理量、64t×2基)も始まった。ただし、コンポスト施設については、平成14年度に廃止される。

37万市民のごみ処理を行っている。

粗大ごみについては焼却の前処理である。

現在平成3年度稼働の150tストーカ炉が1基ある。

国庫補助を受けるにあたり、公害防止対象地域指定された。

県支出金の0.7%は粗大ごみ施設分である。

キルン炉の入口：520 ~ 出口300、延長23.4m。

28mの炉の半分ぐらいで水分をとばし、その後炭化し、金属を抽出する。

滞留時間が4秒あり、ダイオキシン抑制に効果大きい。ちりはゼロに近い。塩化水素も少ない。排ガス工程も少なくイニシャルコストも少ない。

800 ~ 900だとアルミは溶けてしまい、鉄は酸化してしまう。450くらいだとアルミ箔も残る。

スラグ：1mmほどのカーボンを空気輸送する。

(2) 資源化センター新焼却炉事業経過

ストーカ炉125t×2基(昭和55年稼働、旧1・2号炉)

助役を長とした委員会

稼働してから半年間、3炉運転をしている。(ガス化炉200t×2基、ストーカ炉150t×1基)

13万トン程度の処理

2 施設案内

3 質疑応答

Q. 公害が出ないということだが、どこにでも建てられるということか? 排水処理はどのように?

A. 海まで3kmくらいだが...

以前、コンポスト施設は外にあった。

ピット内は負圧であり外に空気が出ないようにしており、臭いが無い。

排ガスは心配ない。排水はし尿処理施設で最終処理。

Q. 地元同意の苦労話は?

A. (浅倉主幹は平成5年当初から担当しているが)

平成8年に環境アセスの結果を提示しながら、地元説明を行ってきた。

この地域(10町)は総代制であり、従来の施設から、年2、3回公害状況報告・懇談会をしてきて、ここで新設炉の話もし始めた。情報が伝わっていたため、相対的に賛成ということ

だった。特にダイオキシン類の排出を少なくということでは、早く新設してほしいという要望が強かった。余熱利用については10町の総代の総意であった。

Q．水の使用量は1日当たりどれくらい？

A．し尿処理も含め400t。

Q．発電は400tフル稼働でどれくらい？

A．12月からようやくごみエネルギーでの発電が始まった。2,000kcalで5,000~6,000kw設計は8,700kw、年間4千万kwを見込んでいる。売買電をしながらである。

Q．残渣は最終的にどれくらい？

A．スラグが7%、脱塩残渣が5%

収集運搬の中継施設で4t車から11tコンテナに積み替えるので、そこで水分が飛ぶ。

Q．1t当たりのランニングコストは？

A．5年間のランニングコストを三井造船で提示し、補償してくれることになっており、その額は直接経費のみで5,800円/1t。見通しはこれを少し超えそう。

Q．公設民営方式についての考えは？

A．昭和55年の施設稼働からいた職員の方に、新しい運転技術を覚えてもらいながら、乗り越えてやってきた。今の職員でやっていく予定。

Q．料金は？

A．持込400円/100kg、産廃800円/100kg

Q．立ち上げは灯油を使うか？

A．今までは、32t/日、当初2,300kcalの予算化をしており、三井造船の補償の関係で灯油を使った。

12月からはスラグの出口の部分だけで使用。8t/日

Q．脱塩残渣のダイオキシン濃度を量っているか？

A．0.05ng-TEQ/g

Q．スラグはどうしている？

A．今は埋め立てている。利用先として土木サイドにも了承は取っていたが、砂として使うには磨砕が必要で、利権の絡みで民間にお願いはできなかった。15年度から市で磨砕して再利用していく。

Q．スラグの毒性は？

A．スラグ中のダイオキシン含有は0

Q．ガス化炉にして、住民の考え方が変わったか？

A . 処分場が逼迫しており、減量化が必要だが、焼却炉に入れるものは増えている。

Q . 職員体制は？

A . 焼却24時間体制のため、1班7人体制で4班の28人と、保守点検班5人、日勤が4人。18年を目途に正規900万円の人件費を嘱託300万円にするよう移行していく。以前96人いた職員を76人に減らすことを達成した。

Q . 市民の要望、苦情は？リサイクルプラザの様子は？

A . なし。収集は一部委託。ペット、ビン、缶、など6分別。ほぼ直営。

Q . 産廃の受入は？

A . 木屑程度。ストーカ炉のとき1,200kcalで低かったので、そのときから継続している。

2 アンケート集計結果

1 今回の視察を通して感じたこと

施設規模・最新技術について

- ・施設の規模の大きさに驚いた(多数)。きれいで匂いがいい。近代的な施設で、ごみ処理施設とは思えない。循環型社会を考慮した高性能の資源化センターである。ダイオキシン対策のしっかりできた施設である。施設が田園地帯の自然環境によく調和している。
- ・あまりにも大きな施設に不安を感じた。

熱利用・資源化・減量化・最終処分について

- ・迷惑施設ではなく、ハウス栽培等に熱利用をするメリットのある施設で、ごみが発電に利用されたり、スラグに変わったり有効な資源になる。(多数)最終処分場の負担が軽減される。
- ・スラグにしているが、今は埋立っているので残念だ。処理される可燃ごみの入った袋がレジ袋で、ごみの減量化にあまり力が入られていない。
- ・施設整備について、基本はごみの減量化を徹底した上で、それでも処理しなければならないごみの処理施設を、いかに優れたものにするかを考えていくことではないか。立派な施設も良いが、ごみを減量することが大切である。

視察内容について

バス車中での説明やビデオ等による事前学習から始まり、豊橋市資源化センターでの視察研修は、有意義であった。今後、他の施設の視察も希望する。(多数)

ごみの問題に関心のある多くの方が参加して勉強することは、これから施設をつくるために、たいへん良い。

忙しいスケジュール、遠距離で、大変だった。人数が多すぎたために説明が良く聞こえなかった。

上田地域では

- ・平成20年度に新たな施設を稼働させることは忙しい。

- ・公害が少なく環境にやさしいガス化溶融施設は、これからの施設として有効であり、早くこのような施設を建設してほしい。(多数)
- ・将来の維持管理も含め、ごみ処理には莫大なお金がかかる。お金を出すのなら本当に良いものを、また、喜ばれるものをつくってほしい。
- ・温水利用、発電施設などのサーマルリサイクルや、バイオマス技術による資源化も検討してほしい。
- ・先進地と一緒に見て、お互いに話し合うことが必要であり、特に設置する地域の住民には、早くからの説明が大切である。スラグが有効利用できれば、住民同意の大きな決め手になるだろう。

2 上田地域広域連合が進める施設整備計画に望むこと

施設規模、最新技術について

- ・豊橋市のようなセンターを作ってほしい。(多数)これからはガス化溶融炉の時代だと思う。
- ・ダイオキシンや煙、臭いのないような施設にしてほしい。

熱利用・資源化・減量化・最終処分について

- ・ガスや熱、金属などをできるだけ回収できる方式にしてほしい。スラグの再利用先の確保を事前にする。
- ・住民の理解を得るためにも、生産につながるような熱利用をしてほしい。
- ・温水利用によるハウスでの花栽培等も、きちんと事業計画を立てないと、無駄になりやすいと思う。
- ・生ごみの飼料化、堆肥化、ごみの減量化を第1に考えてほしい。溶融施設の導入については慎重に進めていただきたい。
- ・ごみの分別など、ルールの統一を図り、資源循環型社会の構築を目指すこと。
- ・これからの高齢化社会に向けて分別のなくなるものであること。各家庭の分別方法が、できるだけ少なくて済むような施設を望む。
- ・危険物の処理施設やリサイクルセンターも同時に建設してほしい。

上田地域では

- ・すばらしい施設、また、方法があることがわかったので、1日も早く進めてもらいたい。他の施設も見学し、よく検討して計画を立ててほしい。
- ・行き場のない産廃も考慮して欲しい。ランニングコストについて、産廃を受け入れることで解消することも考えたらどうか。企業活動のバックアップも考えなければならない時代だと思う。
- ・現行のクリーンセンター及び市町村ごとの設備で進めてほしい。し尿の設備を増す、また、新しくする必要性について、もう少し時間をかけて検討してほしい。
- ・候補地をいくつか選定し、より良い場所に決定してほしい。候補地周辺の住民に視察してもらいたい。
- ・丸子町の神の倉にできればと思う。
- ・候補地に対する選定、評価の経過がわからない。工場団地として買った所へごみ施設は約束違反。ごみ施設にはそれに適応した用地があると思う。もっと地元の説明をしたほうが理解を得られる。

- ・今現在、最高のレベルにある施設を整備していけば、住民皆が納得すると思う。
- ・住民にもっと情報がたくさん届くような、広報方法を検討してほしい。
- ・できるだけたくさんの人の意見を聞くことと、地域住民に理解してもらうことが必要。

3 地域住民として今後、実践・活動したい、気をつけたい、と思うこと

ごみの減量・リサイクル・分別の促進について

これらのことについては、参加されたほとんどの方が改めて必要性を感じたようです。

地域住民へのPRについて

- ・住民に資源循環型ごみ処理施設の必要性をアピールする。
- ・ごみ減量化のため、住民に協力し説明をしたり、地域住民参加型の活動に役立てたりしたい。

4 その他、意見・質問

- ・豊橋市は稼働6ヶ月あまりの中で、各データが明確ではない。良いことづくしで疑問が残る。
- ・産廃に該当するもの（最低でも木屑、剪定枝）を焼却できるようにしてほしい。プラスチックごみを埋立ていることを考えると、熔融炉で燃やした方がいいかなと考える。
- ・若い人（20、30代）の意見を聞いてみたい。
- ・ごみになる前、製品を作るその時に便利なだけで作らないよう、また、企業が責任を持って最後までリサイクルできる製品作りをしていくよう、法律的にもっと深く問題視してほしい。
- ・自治会に入っていない人に、分別の周知徹底をしてほしい。
- ・臭いのあるものを洗うことで環境負荷が大きいものは、可燃に入れられるようにした方がいい。